

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-3-1 人権施策の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

健康推進課長 知念 希和

電話番号

0852-22-5248

事務事業の名称	ハンセン病療養所入所者等支援事業	
目的	(1) 対象	ハンセン病療養所入所者等及び県民
	(2) 意図	ハンセン病療養所入所者の福祉の増進と県民に対する正しい理解の促進
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・病療養所入所者家族援護費…療養所入所により、生活困難な県内居住家族の生計を維持するため、援護を行う。 ・療養所入所者里帰り事業…県出身の療養所入所者等に郷土島根を身近に感じていただき、県民との交流が広がるよう、里帰り事業を行う。 ・ハンセン病に関する普及啓発事業…ハンセン病問題に対する県民の正しい理解を深めるため、普及啓発を行う。 	

2. 成果参考指標

(1) 指標名	ハンセン病療養所訪問者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		200.00	200.00	200.00	200.00	
式・定義	県・島根県藤楓協会事業で療養所へ訪問した県民の人数	実績値	156.00	85.00	263.00	198.00		人
		達成率		42.50	131.50	99.00		%
指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			人
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,029	1,654
うち一般財源(千円)	1,029	1,047

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・島根県出身のハンセン病療養所入所者…7園に18名、平均年齢84才（H27.3.31現在）
 ・里帰り事業参加状況…3園から5名（療養所職員含まず）（H26.4実施）
 ・訪問人数…198人（述べ217人） ①県職員及び島根県藤楓協会役員による訪問…24人（述べ41人） ②人権担当職員、看護学生等による訪問研修…46人（述べ48人） ③民間団体による訪問（島根県藤楓協会補助活用）…128人（述べ128人） ※民間団体による訪問人数は、団体毎に数十人単位で異なるため年度での変動が大きい。
 ・ハンセン病療養所入所者による作品展「笑（え）みてん」開催
 ①期間 平成26年11月28日～30日 ②場所 島根県立美術館1階ギャラリー全室 ③来場者 一般約700人、療養所12人（療養所職員含まず）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

ハンセン病療養所入所者による作品展による成果
 ・多くの来場者を迎え、ハンセン病問題の普及啓発に貢献した。
 ・他機関や一般県民等とも協同で準備等を行い、県民のハンセン病問題に対する理解が深まった。
 ・入所者の方が座談会やレセプション等に参加され、県民との貴重な交流の場となった。
 ・県民に療養所の作品を見てもらうことや、ハンセン病問題を理解してもらうことが、入所者の方の喜びとなった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・入所者との交流の場が少なくなってきた。
- ・ハンセン病問題の風化が危惧されている。
- ・ハンセン病問題の普及啓発は充分とは言えない。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・入所者の高齢化。
- ・普及啓発の場及び資材が充分とは言えない。

③原因を解消するための「課題」

- ・訪問を重視する必要がある。
- ・更なる普及啓発活動をするとともに、記録を残す必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・島根県藤楓協会と協働して里帰り事業や療養所訪問等を引き続き支援し、入所者と島根県との交流を継続する。
 ・他機関と連携し、街頭キャンペーンや研修等を行い、ハンセン病の正しい理解を一層広げ、より効果的にハンセン病問題の普及啓発を図る。
 ・研修資材を提供し、記録を残す。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）